

◆ シネマトーラス 上映スケジュール 2025年12月～2026年2月 ◆

【上映中の作品】 ◇ ～12/26(金) 君の顔では泣けない ◇ ～12/30(火) ネタニヤフ調査 汚職と戦争		当スケジュールを ご持参の方は1,500円で ご鑑賞いただけます。		星と月は天の穴 1/17(土)～1/30(金) 監督：荒井晴彦 出演：綾野剛 咲耶		2025年/2時間2分	小説家の矢添は、過去の離婚経験から女を愛することを恐れる一方、執筆する恋愛小説の主人公に自分自身を投影することで「精神的な愛の可能性」を探索するのが日課だった。ある日、画廊で偶然出会った大学生の瀬川紀子と、彼女の粗相をきっかけに奇妙な情事へと至り、矢添の日常と心が揺れ始める。	
君と私 12/20(土)～12/30(火) 監督：チョ・ヒョンチョル 出演：パク・ヘス キム・シウン		2014年に発生した、安山市檀園高校の生徒を含む約300人以上が犠牲となったセウル号沈没事故。その修学旅行の前日、セミは教室で不思議な夢を見た。胸騒ぎを覚えたセミは学校を抜け出し、けがで入院中のハウンの病室へと走る。一緒に修学旅行に行こうと誘うが、どこか煮え切らないハウン。セミの抑えていた感情がついに溢れ出す。				元阪神タイガースの横田慎太郎さんの自著『奇跡のバックホーム』を基にしたノンフィクション作品。将来を嘱望されながらも、21歳の若さで脳腫瘍を発症。過酷な闘病を経て引退試合で見せた「奇跡のバックホーム」は人々を驚かせ感動を呼んだ。だが、奇跡のドラマは、その後もに続いていたのだった…。彼を支え続けた家族や仲間との絆を描く。		
ヒポクラテスの盲点 12/20(土)～1/9(金) 監督：大西隼		大手メディアが殆ど報道しない、科学と事実に基づく『驚愕』ドキュメンタリー。新型コロナウィルス肝炎で国の感染症対策は変化を重ねた。今となっては様々な情報が報道され始めている。新型コロナワクチンによる後遺症被害の問題。大変な危険を伴った賭けであったことが医学的に明らかになりつつある。新型ワクチン、「1次」も打ちますか？				ブロードウェイの第一線で活躍してきた大女優リリアン・ホールは、公演を間近に控えていた。ところが認知症を患っていることを告げられる。人生のすべてを舞台に捧げてきた彼女は、病気の事実を胸に押しとどめ、公演をやり遂げる決意をするが、現実と妄想の境目さえ曖昧に。はたしてフィナーレを飾る舞台に立つことができるのか…。		
兄を持ち運べるサイズに 12/27(土)～1/9(金) 監督：中野量太 出演：柴咲コウ オダギリジョー 満島ひかり		作家の理子は、兄の急死を知らされて東北へ向かう。兄の元嫁加奈子、子供と再会し、兄たちが住んでいたゴミ屋敷と化したアパートの片づけで目にしたのは、壁に貼られた家族写真の数々。兄の後始末をしなげら悪口を言いつづける理子。兄の知らなかった事実に触れ、怒り、笑って、少し泣いた。もう一度、家族を想いなおす。				不朽の反戦漫画『はだしのゲン』の誕生から現在を見つめるドキュメンタリー。広島県原爆で家族を失った少年ゲンの物語が、なぜ今も人々を熱くさせるのか。閲覧制限問題や平和教材からの削除といった議論、戦火の絶えない現代社会を背景に、作者・中沢啓治が遺した「怒り」と「願い」の真意を、関係者への取材を通して浮き彫りにする。		
ペンギン・レッスン 1/2(金)～1/16(金) 監督：ピーター・カッタネオ 出演：スティーヴ・クーガン ビビアン・エル・ジャバー		1970年代当時の軍事政権下のアルゼンチン。分断された国家や教育への情熱を失いかけていた教師と重油まみれの溺死のペンギンとの偶然の出会い。その奇妙な同居生活と周囲の人々の暮らしを笑いたづりに描き、愛しく思わず笑顔になってしまう本作。愛らしい1羽のペンギンに、世界中の人々が癒され、あたたい感動が広がっている。				ロックンロールの創設者で、人種や世代の壁を越え、後続のアーティストと文化・社会に圧倒的な影響を及ぼしたチャック・ベリーへのトリビュートとして、PBS(アメリカの公放送)のために制作されたドキュメンタリー。“あなたの音楽は俺たちの中に永久に刻まれている—ミック・ジャガー—”“偉大で純粋なロック作曲家—ブルース・スプリング・スティーヴ—”		
Ryuichi Sakamoto:Diaries 1/2(金)～1/16(金) 監督：大森健生 出演：坂本龍一		『日記』に刻まれた坂本龍一。その最後の日々は、自身の日記に克明に綴られていた。ガンに罹患して亡くなるまでの3年半にわたる闘病生活とその中で行われた創作活動。貴重なプライベート映像やポートレートをもとにつに束ね、その軌跡を追ったドキュメンタリー映画。彼は、命の終わりとどう向き合い、何を残そうとしたのか。				現代フランス映画界に燦然と輝く純愛映画の傑作。パリのポンヌフ橋を舞台に、天涯孤独で不眠症の大道芸人アレックスと、失恋の痛手と眼の奇病による失明の危機から自暴自棄になった画学生ミシェルが出会う。工事中の橋の上で、荒唐した日々を送りながらも激しく愛し合う二人の姿を、圧倒的な映像美と熱量で描き出した。		
WHO? 1/3(土)～1/16(金) 監督：なるせゆうせい		2024年9月、有明で行われたWHO(世界保健機関)やワクチン政策への批判を掲げる大規模デモに着目。同様のデモは各地で行われていたが、大手メディアが全貌を報じることはなかった。参加者へのインタビューを通じ、人々の切実な問題提起の真意に迫る。コロナ禍の「光と闇」を描いたドキュメンタリー。ワクチンより効く真実の劇薬。				今から数年後の日本。安楽死法案が可決した。国は実験的に「安楽死特区」を設置することに。回復の見込みがない難病を患ったラッパートと、そのパートナーのジャーナリストカッブル。安楽死法に反対のふたりは、特区の実態を告発するために入居を決意。明日、この国で現実起こるかもしれない世界観を描いた衝撃作。		
風のマジム 1/3(土)～1/16(金) 監督：芳賀薫 出演：伊藤沙莉 染谷将太		沖縄のラム酒誕生にまつわる実話の物語。那覇で暮らす契約社員・まじむが、南大東島のサウキビを原料とした「純沖縄産のラム酒」の製造企画を思いつき、社内ベンチャーコンクールに応募する。やがてその企画は一大プロジェクトへと発展。家族や会社、南大東島の島民をも巻き込むヒューマンドラマ。				小屋番 ハヶ岳に生きる 劇場版 2/14(土)～2/27(金) 監督：深澤慎也 出演：菊地哲男(山岳写真家)		2026年/1時間25分
手に魂を込め、歩いてみれば 1/10(土)～1/16(金) 1週間限定上映！ 監督：セビデ・ファルシ 出演：セビデ・ファルシ ファトマ・ハッスーナ		ハッスンのガゼで撮影を続けるフォトジャーナリスト、ファトマ・ハッスーナと、彼女を見守るイラン人監督セビデ・ファルシ。1年にわたるビデオ通話で紡がれた監督なきドキュメンタリー。ファトマはいつも明るかったが、度重なる爆撃で家族や友人が殺されていき、カンヌ映画祭上映決定の翌日、イスラエル軍の空爆がファトマ家族を襲う。				ダウントン・アビー/グランドフィナーレ 2/14(土)～2/27(金)予定 監督：サイモン・カーティス 出演：ヒュー・ボネビル ローラ・カーマイケル		2025年/2時間4分
チャップリン 1/17(土)～1/30(金) 監督：カルメン・チャップリン 出演：マイケル・チャップリン ジョニー・デップ		チャーリー・チャップリンのルーツに迫るチャップリン家、初の公認ドキュメンタリー。プライベートフィルム、独占インタビューなどの貴重な映像とともに、彼が映画で描き続けた“放浪紳士”のルーツを探るべく、息子マイケルが世界各地に赴き関係者やゆかりの場所を訪ね歩く。偉大過ぎる父を持ったマイケルの屈折した愛憎も描かれる。				黒の牛 2月中旬公開予定！ 監督：篤哲一朗 出演：リー・カンジョン 田中泯		2024年/1時間54分
プラハの春 不屈のラジオ報道 1/17(土)～1/30(金) 監督：イジー・マードル 出演：ヴォイチェフ・ヴォドホツキー スタニスラフ・マイエル		世界中で若者たちの理想とエネルギーが爆発した1968年。ソ連の支配下にあったチェコスロバキアでも、若者たちがデモやチャリンク民主化運動を起こした。ついに「プラハの春」が訪れたと思った矢先、ソ連軍が侵攻し放送局を占拠。戦車に囲まれても市民と自由のため、命をかけて真実の放送を続け闘ったラジオ局員たちの、緊迫の実話。				<休館日> 12月:22日(月)・23日(火)・31日(水) 1月(予定):1日(木)・13日(火)・19日(月)・26日(月)・27日(火) 2月(予定):2日(月)・9日(月)・10日(火)・16日(月)・24日(火)		《シネマ・トーラスからのお知らせ》 シネマトーラスでは来年度から毎週月曜と火曜を休館日とすることを検討しています。 尚、休館日が祭日になる場合は随時、事前にお知らせします。